



発達障がいって なんだろう？



北海道

(委託先に北海道発達障害者支援センター あおいそら、きら星、きたのまち)



発達障がいとは

発達障害者支援法では、これまで制度の谷間におかれていて、必要な支援が届きにくい状態となっていた「発達障がい」を「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの」と定義し、支援の対象としています。

それぞれの障がいの特性

- 言葉の発達の遅れ
- コミュニケーションの障がい
- 対人関係・社会性の障がい
- パターン化した行動、こだわり

知的な遅れを伴うこともあります

自閉症

広汎性発達障害

アスペルガー症候群

- 基本的に、言葉の発達の遅れはない
- コミュニケーションの障がい
- 対人関係・社会性の障がい
- パターン化した行動、興味・関心のかたより
- 不器用（言語発達に比べて）

注意欠如多動性障害 ADHD

- 不注意（集中できない）
- 多動・多弁（じっとしてられない）
- 衝動的に行動する（考えるよりも先に動く）

学習障害 LD

- 「読む」、「書く」、「計算する」等の能力が、全体的な知的発達に比べて極端に苦手

- 発達障がいの分類や名称は、教育や福祉、医療、行政等の立場の違いによって使い方が違ったり、時代によって変化したりすることもあります。
- 自閉症やアスペルガー症候群は、自閉症スペクトラムと呼ばれるようになってきており、広汎性発達障害という名称は使用されなくなってきています。また、注意欠陥多動性障害は、注意欠如多動性障害という名称に変わってきています。
- スペクトラムとは、連続体という意味で、つながっているという状態を示しています。

自閉症

自閉症は、次の3つの特徴がある障がいで、3歳までには何らかの症状がみられます。

- 1 対人関係の障がい
 - 2 コミュニケーションの障がい
 - 3 限定した常同的な興味、行動及び活動（常同＝特定の行動を取り続ける）
- ※ 最近では、症状が軽くても自閉症と同様な特徴がある人も含めて、自閉症スペクトラムと呼ばれています。

例えば……

- ・視線が合わない。
 - ・他のことに関心が向かなく、特定のことや特定のパターンにこだわる。
 - ・ことばが出なかったり、ことばの発達に遅れがある。
 - ・名前を呼んでも振り向いてくれない。
 - ・かんしゃくが強い。
 - ・急な予定変更が苦手で動けなくなったり、混乱する。
- など



また、自閉症の方の状態像は、年齢や知的障がいの有無、症状の程度などによって、非常に多様です。約半数は知的障がいを伴い、症状が重い人では合併症が多くなり、約3割の方は知能には遅れがない、高機能自閉症と呼ばれる方です。学業成績が良い場合もありますが、人との会話は苦手なことが多いです。

支援のポイント

- ・会話は、短くわかりやすいことばで伝えましょう。また、絵や文字、ジェスチャーなど目から入る情報も組み合わせると効果的です。
- ・見通しがもてないと大きな不安を感じます。予定は前もって明確に伝えましょう。
- ・生活におけるルールは、その都度わかりやすいことばで教えてあげましょう。
- ・初めてのことに極度の緊張があるので、強引に接触することは避け、本人が拒否した場合には無理強いしないようにしましょう。

アスペルガー症候群

広い意味で「自閉症」の1つのタイプです。自閉症の3つの特徴のうち、対人関係の障がいがあり、限定した常同的な興味、行動及び活動の2つの特徴を有し、コミュニケーションの目立った支障がなく、ことばの発達の遅れがないというところが自閉症と異なり、知的発達に遅れのある人はほとんどいないことが特徴です。

例えば……

- ・表情や身振り、声の抑揚、姿勢、興味の対象などが独特。
 - ・親しい友人関係を築けなかったり、苦手。
 - ・慣習的な暗黙のルールが分からないことが多い。
 - ・冗談や比喻、皮肉が分からない。
 - ・その場にそぐわない対人関係の取り方をする。
 - ・身体の使い方がぎこちなく、不器用な場合が多い。
- など

支援のポイント

- ・視聴覚・触覚などの感覚が過敏な場合があります。不快な刺激を取り除いてあげましょう。
- ・生活におけるルールや指示は、その都度明確に教えてあげましょう。
- ・予測できないことや変化に苦痛を感じるが多いため、予定は前もって明確に伝えましょう。
- ・否定的な言葉に敏感です。ポジティブに接しましょう。
- ・時にはゆっくり待つことも心掛けましょう。



学習障害(LD)

LD (Learning DisordersまたはLearning Disabilities) と略されることもあり、全般的な知的発達の遅れはないのに、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論するなどの特定の能力を学んだり、実行したりする時につまずきがあります。

例えば……

- ・ 話の聞き漏らしや聞き違いがある。
 - ・ 話をわかりやすくまとめて伝えることが苦手。
 - ・ 文章の文字や行を飛ばして読んでしまう。
 - ・ 年齢相応の数の理解や計算が苦手。
 - ・ 助詞の「は」を「わ」と書いたり、「め、ぬ」など形の似た文字を書き間違える。
 - ・ 物事の因果関係を理解することが難しい。
- など



支援のポイント

- ・ 話を理解することが苦手な場合は、話の要点を紙に書くなどして、わかりやすく伝えましょう。
- ・ 話すことが苦手な場合には、答えやすい質問をしたり、手本を見せたりしましょう。
- ・ 読むことが苦手な場合には、行間を広げる、線を引く、物差しをあてるなどして、読む部分を明確にしましょう。
- ・ 書くことが苦手な場合には、マス目や行間が広い、書きやすいノートを使いましょう。
- ・ 本人ができることを大事にしてあげ、苦手なことに合わせた工夫を考えましょう。



注意欠如多動性障害 (ADHD)

ADHD (AD/HD : Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder) と略されることもあり、年齢や発達段階にそぐわない不注意・多動性・衝動性を特徴とする行動の障がいです。これらの特徴が7歳以前にあらわれます。

- 1 多動性 (話が止まらなかったり、待つことが苦手でうろうろしてしまう)
- 2 注意力散漫 (うっかりして同じ間違いを繰り返してしまう)
- 3 衝動性 (約束や決まり事を守れないことや、せっかちでいらいらしてしまう)

例えば……

- ・おしゃべりが抑えられない。
 - ・じっとしてられない。
 - ・順番を待つことができない。
 - ・忘れ物や物を紛失しやすい。
 - ・話が終わる前に急に話したず。
 - ・ゲームなどはいつまでもやめようとしないが、他のことには集中を持続させることが難しい。
- など



支援のポイント

- ・長所を見つけ、活かしていきましょう。
- ・気が散りやすいので、集中しやすい環境を作りましょう。
- ・ただ制止するのではなく、今どうすればいいかをその場で具体的に伝えましょう。
- ・行動や課題は少しずつ指示し、取り組みやすくしましょう。
- ・良い行動をしたらすぐに褒めて、自尊感情の高揚に努めましょう。

広汎性発達障害(PDD)

PDD (Pervasive Developmental Disorders) と略されることもあり、自閉症、アスペルガー症候群のほか、レット障害、小児期崩壊性障害、特定不能の広汎性発達障害を含む総称です。

・レット障害

女兒に発症する非常に稀な脳障害で、重度の広汎性発達障害です。

生後5～30か月までは身体的にも精神的にも正常な発達をしていきますが、生後5～30か月を過ぎたころから、発達の停止と退行を示すようになります。そして、最終的には重度の知的障がい、歩行障がい等が現れ、車椅子等での生活を余儀なくされる障がいです。

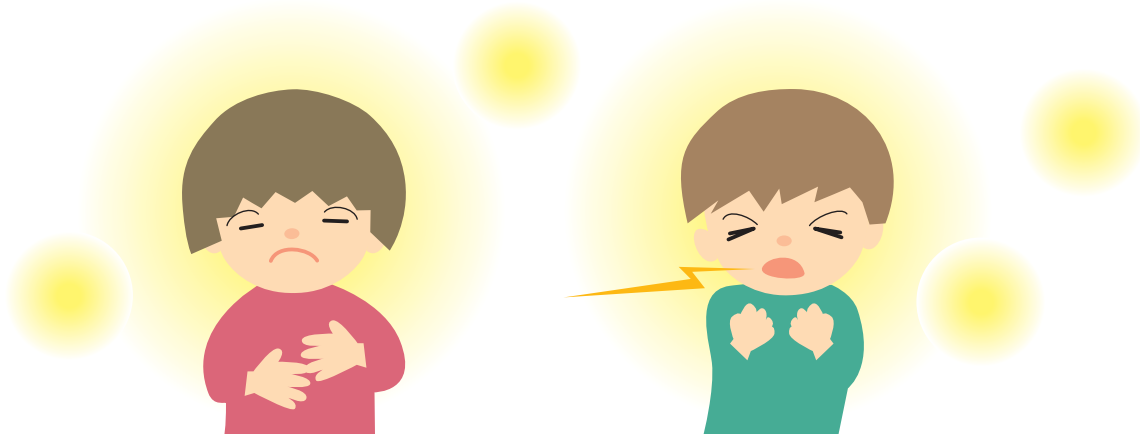
・小児期崩壊性障害

男児に多い稀な広汎性発達障害です。

2歳ぐらいまでは正常に発達していきますが、その後、言葉がなくなる有意味語消失が特徴的でその他にも対人反応に異常がみられます。また、執着心が強くなったり、常同行動なども見られることがあります。

その他の発達障がい

トゥレット症候群のように「まばたき・顔しかめ・首振りのような運動性チック」症状や、「咳払い・鼻すすり・叫び声のような音声チック」を主症状とするタイプのものも、発達障がいの定義に含まれています。



ちょっとだけ 元気になれるおはなし①

～ 発達障がい当事者のエピソード ～

あおいそらが訪問支援を行っている幼稚園に、自閉症とADHDがあるKくんがいました。彼は非常に多動で、周囲の状況理解もうまくできず、周りの園児達とのトラブルが絶えずにいました。でも、素敵な先生達に支えられ、通常のクラスの中で様々な工夫が施され、落ち着いて過ごせるようになりました。全てのトラブルが無くなったわけではないのですが、園児達の彼の受け止め方も“彼は彼なりのやり方で頑張っている”というように前向きな捉えに変わっていききました。

そんな彼も、今年度、小学校の1年生。担任の先生は、彼の特性に配慮し、彼の席を、教卓の目の前に配置しました。それを見た他の幼稚園から入学してきた児童は、「Kくんだけずるい、僕も先生の近くに座りたい。」と不満を口にしました。先生が困っていると、Kくんと同じ幼稚園で育ってきた児童が明るく言いました。「いいんだよ。Kくんは、先生の近くに座ると頑張れるんだよ。」と。

障がいの有無に関わらず、人は一人一人違います。それぞれに合った頑張り方や工夫の仕方があるのです。その本人なりの素敵な姿をプロデュースするのが私たち支援者の役目だと思います。

(あおいそら)



ちょっとだけ 元気になれるおはなし②

～ 発達障がい当事者のエピソード ～

小さい頃から落ち着きがなく、ADHDと診断をされた20代の男性がいました。最近になりアスペルガー症候群と診断名が変わりました。学校では、いじめに遭い「自分の優しさを分かってくれない」と思う反面、「どうせ自分が何をやったってうまくいかない」と思いながら成長してきました。そんな自分でも自慢できる能力があり、その能力を活かす仕事に就くことができました。

そこでは、社員の方々に注意されたりすることもあります。社長に褒めてもらうこともたくさんあります。そんな自慢できる能力を活かせる職場に就いて彼は、「アスペルガー症候群でよかった。僕にはこの力があるから大丈夫。僕の周りにいるアスペルガー症候群の人たちや違う会社の人たちにも僕が頑張れることを知ってもらいたい。」と語ってくれました。

就職した現在も、きっとこれからも、知らなかった“常識”に打ちのめされたり、言葉の意味の取り違えで対人関係がこじれてしまったりすることがありますが、周囲の人に相談をしながら周囲の人と共に成長していけるといいなと思います。

(きたのまち)



ちょっとだけ 元気になれるおはなし③

～ 発達障がい当事者のエピソード ～

高校を中退して一生懸命働き、生きていこうと頑張っている若者がいます。高校に入学してからあまり楽しいことがなかったというR君。きっと何をしてもよいのか、周りからの評価もダメ出しをされる事が多く、先が見えず出口が見つからないまま苦しんでいたのでしょうか。

今はその彼と月1回お会いしているのですが、現在はとても前向き「仕事はきついけど周りの人も優しいし、休みは少なく疲れるけど楽しい」と言っていました。

それからもう一つこんなことも話していました。「俺、もう少し勉強しておけばよかった」と。何故そう思ったのかを聞いてみると、「皆が使っている言葉の意味が分からないんだ、だから迷惑をかけているかも…」と。

彼にとっては大きな気づきなのではないかと思います。きっと在学中では学べなかったことを労働とそこに関わる良き理解者との出会いがあってそう思えたのでしょうか。彼はこれからもきっとお母さんや良き理解者と一緒に精一杯生きていくのでしよう。 頑張れR君！

(きら星)



ちょっとだけ 元気になれるおはなし④

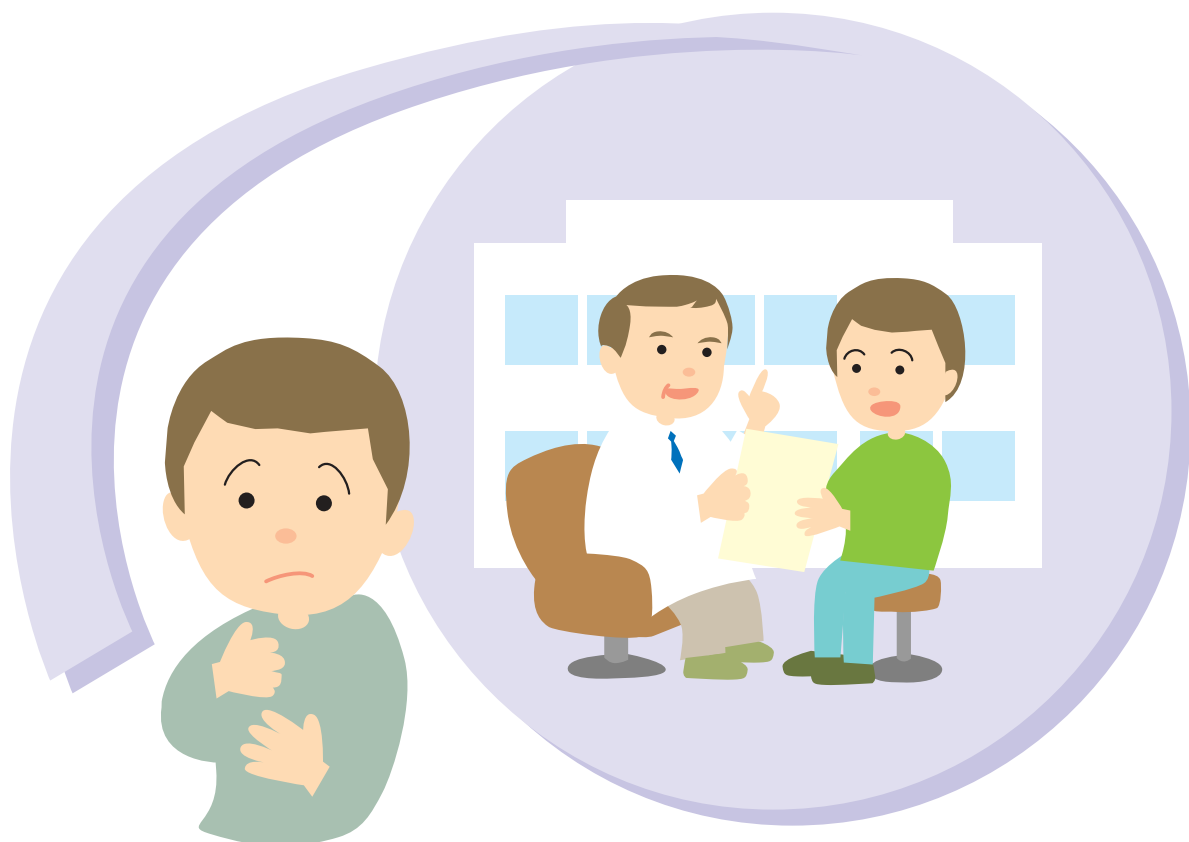
～ 発達障がい当事者のエピソード ～

転職や離職を繰り返す中で、精神的な落ち込みも激しくなり、病院に行ったところ発達障がいの診断を受けた30代の男性がいました。出会った当初、彼は発達障がいが何であるのかもわからず、自己否定の感情が強くありました。人とは違う自分をよくない存在だと思ってしまっていたのです。確かに人との関係でもうまういかなかったことも多くあったでしょうし、叱責や中傷も数多く受けてきたと思います。

しかし、「その中でも必死にもがきながら、人生を歩んできた不器用だけれどもまっすぐな自分」に少しずつ気づき始めます。

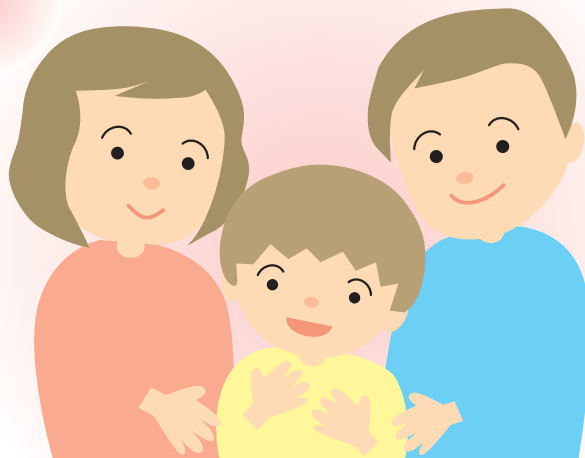
彼は最近こう言います。「生まれ変われるなら、もう一度自分に生まれ変わってもいいかなと、時々ですが思うようになりました。少なくとも今よりも自分とうまく付き合えるような気がします」と。まだまだ彼の生活状況は苦しいですが、自分に自分でOKを出せるようになったことをとてもうれしく思います。自分の一番の味方は自分自身なのですから。

(おがる)



皆さんに わかってほしいこと

- 発達障がいの原因は、医学的にはまだ解明されていませんが、生まれつきの脳のタイプの違いと考えられています。
よく噂になっている「親のしつけ方が悪い」、「あいつはわがままだ」など、子育ての方法や生活してきた環境によって発達障がいになるわけではありません。
- 「発達障がいは能力がずっと発達しない」、「そのうち何とかなる」と考えている方は、今でも多く見られます。発達障がいは発達の過程に生まれつき凸凹がある障がいです。人間は一生をかけて発達していく生物であり、発達障がいのある方も同様です。個人差はありますが、周囲の皆さんが凸凹のある発達の仕方を理解し、支援することにより、「ハンディキャップになることを防ぐ可能性がある」という視点を持つことが重要です。
- 発達障がいがあっても、周りの皆さんが理解し、寄り添いながら本人に適した支援を行うことにより、もともと持っている力をより伸ばしていくことができます。
- パニックを起こしたら、本人や周囲の安全に気をつけて、落ち着くまで、慌てず静かに見守っててください。落ち着いてから、どのように行動すればよいのか一緒に考えてあげましょう。叱るのではなく穏やかに話を聞きましょう。



発達障がいの方々との コミュニケーションを 考える視点

発達障がいは脳の働きの違いといわれています。でも、その違いは外からは見る
ことができません。ですから、発達障がいのある方は、一見、「どこがどんな風に
障がいなのかわからない」、「障がいがあるようには見えない」というように思わ
れることがあります。

そのような特徴を、よく、“見えない障がい”と表現することがありますが、こ
のことは彼らが誤解をされる要因のひとつでもあります。障がいの特性として苦手
なこと、悪気もなく行ってしまったことに対し、「わざとにやっている」、「さぼ
っている」、「怠けている」等と思われ、さらに、厳しく言ってやれば直るといっ
た誤った対応をされてしまうこともあります。

まずは、発達障がいの特性の理解を深めること。これが彼らとのコミュニケーシ
ョンを支える第一歩です。

脳の働きが違うということは、見たり、聞いたり、感じたりする情報の受け止め
方、処理の仕方、理解の仕方が私たちとは異なるということです。

私たちには当たり前だと思っているようなことでも、発達障がいを持つ方は同じ
ようには理解していないということが少なくありません。

ですから、私たちが意図することと発達障がいを持つ方が理解すること、もしく
はその逆について、どうすれば共通理解を図れるか、ということを考える必要があ
ります。それはまさに異文化交流と言えるでしょう。

例えば、文字や絵など見て分かる形で伝えること、また口頭でも、曖昧な表現で
はなく具体的に伝えることなどが効果的な人がいます。また、注意を奪われるよう
な刺激を周囲の環境から減らしてあげたり、話しかける時は、こちらに注意が向い
ていることを確認してから、簡潔に伝えるようにすると理解しやすい人もいます。
つまり、私たちからの働きかけを含む、環境に工夫をすることが大事です。

それは、異文化コミュニケーションをスムーズに行うための翻訳ツールに例える
ことができるかも知れません。また、発達障がいのある方の特性に合わせたバリア
フリーでもあるといえるでしょう。

発達障害者支援センター

発達障害者支援センターは、発達障がい児(者)への支援を総合的に行うことを目的とした専門的機関で、発達障害者支援法に基づいて北海道が指定した社会福祉法人が運営しています。

発達障がい児(者)とその家族が豊かな地域生活を送れるように、保健、医療、福祉、教育、労働などの関係機関と連携し、地域における総合的な支援ネットワークを構築しながら、主に発達障がい児(者)とその家族に関わる事業所や保育所等の職員等の相談に応じ、助言を行っています。

発達障害者支援センターの主な役割

- ★ 発達障がい児者に対する専門的な支援
(市町村等だけでは対応が困難なケース)
- ★ 市町村や事業所等に対する後方支援
- ★ 支援者の育成

機関支援

地域で発達支援に関わる市町村、保育所、幼稚園、学校、事業所等での連携体制や支援体制の整備に関してアドバイスを行っています。

研修実施

関係機関と連携を図り、地域で課題となっていることなどをテーマに研修を行っています。

また、発達支援に関して、講師派遣も行っています。

相談対応

地域で発達支援を受けていて、対応が困難な場合に発達支援に関わる職員、本人、保護者等へアドバイスを電話、来所等により行っています。(要予約)

普及啓発

発達障がいについて、地域の多くの方々に理解をしていただけるよう関係機関と普及啓発を行っています。



北海道の発達障害者支援センター

北海道発達障害者支援センター あおいそら

空知・石狩・後志・胆振
・日高・渡島・檜山

〒041-0802 函館市石川町90-7
TEL 0138-46-0851 FAX 0138-46-0857
E-mail aoisora@yuai.jp

●開設時間 月～土
9:00～17:00
※祝日、年末年始を除く

発達障害者支援道北地域センター きたのまち

上川・留萌・宗谷

〒078-8391
旭川市宮前1条3丁目3-7
旭川市障害者福祉センター おびった1F
TEL 0166-38-1001 FAX 0166-38-1002
E-mail kitanomachi@circus.ocn.ne.jp

●開設時間 火～土
9:00～17:00
※月曜日は電話相談のみ
／祝日、年末年始を除く

発達障害者支援道東地域センター きら星

オホーツク・十勝・
釧路・根室

〒080-2475
帯広市西25条南4丁目9番地
TEL 0155-38-8751 FAX 0155-37-5783
E-mail kiraboshi@obifuku.jp

●開設時間 月～金
9:00～17:00
※祝日、年末年始を除く

支援対象エリア



札幌市自閉症・発達障がい支援センター おがる

札幌市

〒007-0032
札幌市東区東雁来12条4丁目1番5号
TEL 011-790-1616 FAX 011-790-1604
E-mail sapporo-hattatsu@harunire.or.jp

●開設時間 月～金
9:00～17:00
※祝日、年末年始を除く